

夢を育み、未来を拓く!



国立大学法人 大分大学 学長 北野 正剛

大分大学を志願される高校生の皆さんへ!

大分大学は5つの学部からなる大分県唯一の国立大学です。豊かな自然に恵まれた且野原キャンパスには、教育学部、経済学部、理工学部、福祉健康科学部の4学部が、狭間キャンパスには医学部があり、全学で約5,600人の学生が学んでいます。

Table with 2 columns: Faculty (教育学部, 経済学部, 理工学部, 福祉健康科学部) and Enrollment (募集人員, 本年度入学者の男女比).

医学部 総合型選抜(地域枠)に加え、一般選抜に地元出身者枠10名を新設

Table showing enrollment details for the Faculty of Medicine, including general admission and local quota admissions.

地域貢献「専門医と総合医を養成」

医学部附属地域医療センターは、地域医療振興の拠点。安全・安心の大分県、健康寿命日本一の実現に向けて、医学部附属地域医療センターは、地域に特有な疾病等の研究を行い、その知見を活かし県内の自治体、医療機関と連携した医学教育を推進するなど、地域医療振興の拠点として貢献しています。

医学部看護学科 総合大学で看護学を学ぶ

総合大学の利点を生かし、さまざまな学問分野の講義で幅広い知識を学修できます。医学科や福祉健康科学部との合同演習で、多職種での連携・協働による医療を学びます。

理工学部 集まれ、「リケジョ」(理系女子)!

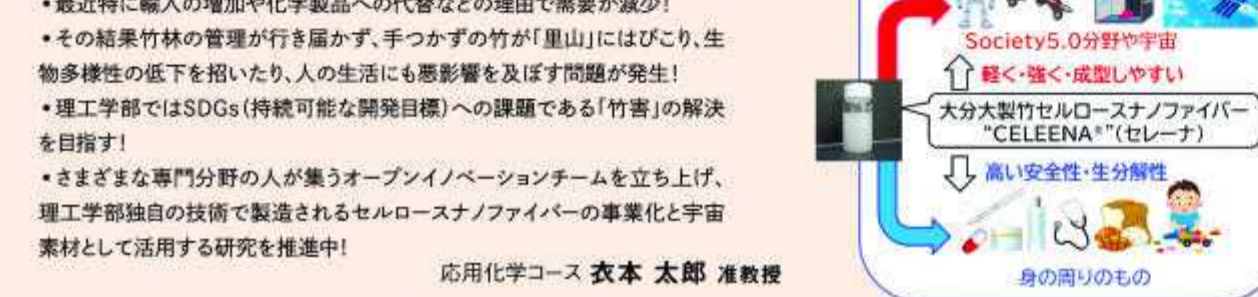
理工学部は、体力が要するイメージがあるが、他学部比べて女子学生が少ない傾向に! 実際は特に体力が必要でもない、面白い分野なものもない!

次世代のための「減災社会」をデザインしよう!

災害が多発する今日、常に持続可能な社会とは何か? まちのリスクを分析し、どのように対応すべきか! これらの課題に理工学部では都市計画をベースとした防災・減災に取り組み、命を守るための教育に反映!

竹から作り出す 次世代素材で宇宙を目指そう!

竹は古くから食品や日用品として産された素材! 最近特に輸入の増加や化学製品への代替などの理由で需要が減少! その結果竹林の管理が行き届かず、手つかずの竹が「里山」にはびこり、生物多様性の低下を招いたり、人の生活にも影響を及ぼす問題が発生!

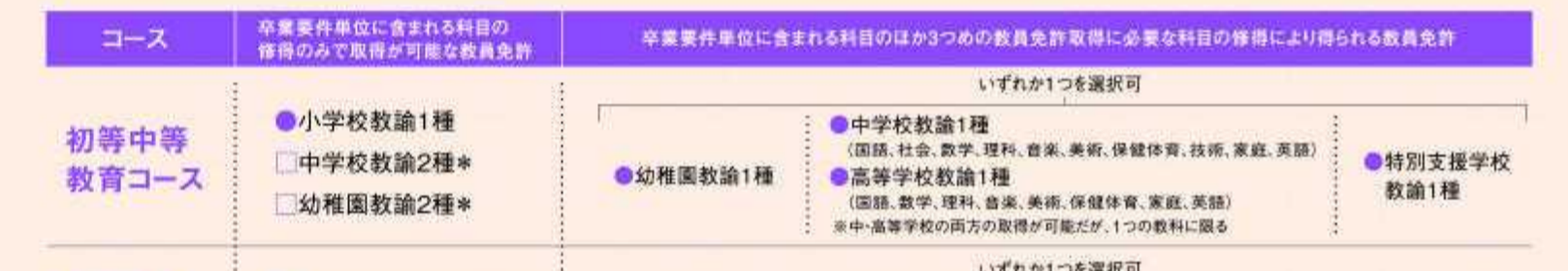


教育学部 直近4年間、全国1位の教員採用試験合格率!

国立の教員養成大学・学部(教員養成課程)の就職状況等について(文部科学省発表) 発表されている直近4年間(平成28~31年)全体の正規教員就職率は全国1位



学生一人ひとりに複数の教員で対応するサポート体制 メンタリングコーチングシステム(Mentoring coaching system)



経済学部 令和に輝く100年の歴史と伝統

大分大学経済学部は、大正11年に設立大分高等商業学校として創設され、令和4年には創立100周年となる

学部独自の留学プログラムと留学奨学金

国際交流教育奨励のため、学部同窓生の寄付による経済学部独自の奨学金を設置

福祉健康科学部 大分大学の強み「医療」「福祉」「心理」を融合し「地域包括ケアシステム」の中で活躍できる専門職のリーダーを養成するため、平成28年4月に設置された大分大学でいちばん新しい学部!

高齢化に伴い、住み慣れた地域で、その人に適した専門的支援を切れ目なく提供する「地域包括ケアシステム」の確立が、国や地域の緊急課題

福祉健康科学部の教育の特色

「ひろく」学ぶ 「地域包括ケア概論」「福祉健康科学概論」で、「地域包括ケア」の基礎や現代社会における福祉・健康に関する課題を学習

資格と進路



国立大学を取りまく状況

全国的に急激な少子化が進行しており、ピークであった昭和23年の出生数は約270万人でしたが、平成28年以降は100万人を割り、令和元年には約86万人となりました。



大分県内の少子化の進行状況、進学・就職の状況

全国的な少子化の進行と併せて、大分県の少子化も進行しています。大分県内の出生数のピークは昭和23年の43,923人でしたが、平成23年以降は1万人を割り、令和元年は7,624人とピーク時のおよそ17%となっております。

大分大学の「ガバナンス改革」

「第三者委員会」等の外部の有識者の意見も踏まえた大学改革を積極的に推進

これまでの学部・学科の新設・再編の状況



これからの改革推進の計画

令和元年6月18日に文部科学省が「国立大学改革方針」を提示し、これからの各国立大学は、この方針を踏まえてスピード感を持って改革を進めることが求められています。

国による大学改革の動き

国立大学としての「社会的責任」を果たすために「ガバナンス改革」を! 国立大学を取りまく状況の大きな変化の中で、いま、まさに国立大学は「社会に有為な人材を輩出する」という原点に立ち、「社会的責任」を果たすため、生き残りをかけて自ら変わらなければなりません。

学長の任期の見直し

学長の任期については、基本的に各大学が判断すべき事項ではあるが、過度に短い場合には、大胆な改革を行うことは困難であり、各大学の中長期的なビジョンを踏まえながら、安定的なリーダーシップを発揮できるように、それぞれに適した年数の任期を設定すべきである。

教授会の役割

学部教授会の審議事項が大学の経営に関する事項まで広範に及んでおり、学長のリーダーシップを阻害しているとの指摘がある。各大学において、教授会に決定権を付与するよう内部規則等について、権限と責任の明確化の観点から総点検・見直しを行うことが必要である。

中央教育審議会 審議まとめ(概要/平成26年2月21日)

I 学長選考 法制度の趣旨からして、過度に学内の意見に偏るような選考方法は適切と言えない。学長選考組織(各大学の学長選考会議)がその権限と責任において学長を最終的に決定すべきである。

II 学部長選考

学長は、学長のビジョンや大学の経営方針を共有して適切な役割を果たすこと

III 学長の任期の見直し

学長が長期的な経営責任を負うこととしている国立大学法人法の趣旨を踏まえ、学部の「教育に関する事項」を審議する機関としての教授会の役割と責任を明確なものとした。

IV 教授会の在り方の改革

学長が最も重要な経営責任を負うこととしている国立大学法人法の趣旨を踏まえ、学部の「教育に関する事項」を審議する機関としての教授会の役割と責任を明確なものとした。

医学部 医学部 メディカル・イノベーション学科(45人) 設置構想中

